

今日のシライ中

本の翼

白井中学校図書室から VOL.4

さわやかな初夏の風と共に、皆の元気な声が、学校に戻ってきました！「お帰りなさい！」お待ちしていました。さて、今日の本は、「世界の不思議」を実感できるビジュアルな2冊です。図書館が再開されたらぜひ見てください。びっくりしますよ！



『へんな生きもの へんな生きざま (エクснаレッジ)』 早川 いくを

まず、表紙のインパクトたるや、かの有名な「ハダカデバネズミ」のアップです。皆さん、ご存じですか？ハダカデバネズミ！地下に巣を持ち、30年もの長寿で知られる、病気知らずのネズミです。見た目は、名前の通り。でも、女王がいて、働きネズミは、兵隊、子育て係、さらには、寒いとき布団の代わりにする通称「肉布団」係までいるという、社会性をもったユニークなネズミです。

このような、不思議な生き物を文章と、美しい写真で紹介する、究極の一冊。それがこの「へんな生きもの へんな生きざま」です。写真を見ているだけでも、うっとりすること間違いなし！「ノコギリビワハゴロモ」のかっこいいこと！ハナカマキリの美しいこと！（擬態と言われてはいますが、そもそも、この形の段階＝幼体 のときには、ランの花にはめったにいないということが、近年わかってきました。）オオミミトビネズミの愛らしさ！・・・体の半分ほどの大きさが耳です。ピクチャーウイングフライの信じられない羽の模様！やめられない、止まらない。いくら書いても書ききれない！えいっ！仕方がない、続きはぜひ、図書室で！

ちなみに、ハダカデバネズミは「上野動物園」、爬虫類館の近くに展示されています。興味のある方は、そちらもどうぞ！

『自然がつくる不思議なパターン (日経ナショナルジオグラフィックス)』

フリップ・ボール

サブタイトルは、「なぜ銀河系とカタツムリは同じかたちなのか」です。皆さん、今まで、かの雄大な「銀河系」とかの小さな「カタツムリ」が、同じかたちなどと、思ったことがありますか？実は、この世界は、思いがけないものに共通の規則性がある、秩序正しい世界でもあるのです。

たとえば、ヒマワリの小花（ちなみに、私たちが通常ヒマワリと呼んでいるのは、この小花の集合体です。）の配列の規則性は、数学の「フィボナッチ数列」に一致するといわれています。もちろん、ヒマワリが、そんな難しい数学を知っているわけではありません。（余談ですが、ずっと昔から言われ、教科書にも載っているこの定説を疑って、実際調べた人がいます。すると、そこまできれいには、一致していないことが判明し、皆腰を抜かしました。つまり、実際の自然の下では、色々な条件が重なり、そうはうまくいかない、ということです。）シマウマはどうやって体に模様を描くのか。貝のらせんの内側、その小部屋一つ一つの規則性。そして、なんと、カタツムリの殻のらせんは、銀河のらせんと同じ形をしているということ。どうですか？神秘的ではないですか？私たちの身近に「宇宙」が存在するのです。

『波紋と螺旋とフィボナッチ』（近藤 滋）という本もあります。（大人向けなので、少し難しいですが・・・）そして、今日紹介したこの本は、同じような内容を、美しい写真で紹介している一冊です。